

【緑で結ぶ心の輪】



Vol. 59 (平成25年9月)

埼玉グリーンアドバイザーの会 広報委員会

〒336-0035 さいたま市南区松本 2-1-13 柴田園芸刃物(株)内 事務局

TEL : 048-864-2311 / FAX: 048-864-2355

事務局メールアドレス

s-ga0329@s-greenadviser.org

埼玉 GA の会ホームページ

s-greenadviser.org

【研修報告】 (株)サカタのタネ花統括部 小杉波留夫 氏による

「新しい価値の創造と人のつながり」

平成25年9月3日(火) 於 南浦和文化センター 参加者20名



まずは、自宅での花の栽培の様子などをスライドで説明、庭が無くとも空間を利用して栽培出来る三次元園芸の話がありました。

次に、人類の歴史の中での植物の役割等の話、「人はなぜ花を好むのか？」それは即ち、豊かな環境を好む本能的な現象であって、女性が花好きなのは子供を生み育てるため男性以上にその様な環境を好むのではないかという事でした。

日本の園芸の歴史、とくに江戸時代は、大名から町人まで園芸が好まれ、とても盛んであった事、明治維新により江戸の園芸も衰退してしまいましたが、1990年の大阪花の万博から、また官民一体となった緑化推進が行われ現在のガーデニングブームに至っている。ただ近年は、10年前と比べると花苗の販売は減ってきていて、特にパンジーは半減しているそうです。

いよいよ小杉氏の大きな取組みテーマであったサンパチェンスの話題に入りました。開発当初は社内からも「値段が高い」「大きくなり過ぎる」等の否定論があったが、欠点を長所に置き換える戦略を取ることで販売数を伸ばすことができたそうです。サンパチェンスのホルムアルデヒド(CH₂O)の代謝は、他の植物の3~4倍であるという特徴もあり、2013年、世界で1800万本のヒット商品になったという事でした。

現在はフォーチュンベゴニアの販売に力を入れ、冷涼なヨーロッパで楽しまれている球根ベゴニアを日本でも長く楽しめるようにと広報、啓蒙活動を全国で展開しています。

最後は、(公社)日本家庭園芸普及協会の復興支援委員会の副委員長として陸前高田市、気仙沼市、南相馬市などで「花いっぱいキャンペーン」を実施している現状の紹介がありました。被災地でうまく花を咲かせるために活用している「花の種ダンゴ」の作り方を教えて頂きました。

実際に参加者全員で作ってみて、これは子供からお年寄りまで楽しんでタネまきができると感じました。



次回は是非三次元園芸を実技でご指導いただけたらいいですね。

(記事 本田陽子)

【研修報告】

柳下和之氏（園芸研究家）による 「山野草の楽しみ方」 パートⅨ」

植物多様性を知る・守る・伝える「筑波実験植物園」 散策日帰りツアー

平成 25 年 7 月 6 日(土) 講師：当会の理事である柳下和之氏

参加人数：14 名（一般参加者 1 名、子ども 2 名）

筑波実験植物園は生きた植物を収集・保全し、絶滅危惧種を中心とした植物多様性保全研究をしています。およそ、14ヘクタールの敷地には、日本に生育する代表的な植物をはじめ、世界の熱帯や乾燥地に生育する植物 私たちの命を支える植物、筑波山にみられる植物など 7000 種類以上を植栽し 3000 種類をみることができます。

入園してすぐに並木道があり生きた化石と言われるメタセコイヤ世界一背の高くなるセコイアトチノキとマロニエが交互に植栽され木肌の違い 接ぎ木の様子などがわかるようになっていました。

絶滅危惧種であるコシガヤホシクサの説明とは別に再生プロジェクトの表なども展示されています。

野菜栽培ゾーンもありエシャロットとらっきょうのお話を柳下先生から伺ったり、毒は大切と表示されたトリカブトやキョウチクトウ（毒にもなるが、薬にもなる事の詳しい表）日本特有の植物で絶滅危惧種のチャルメラソウまたその名前の由来 花の写真世界でもっとも大きいランとされているグラマトフィルム・スペキオムスの花が咲き見頃でした。

ハーブ園では、レイズドベットに植えられたラバンダーやラムズイヤー・チェリーセージなどなどイギリスのKewガーデンを思わせる植物園で2度3度足を運びたい植物園でした。

(記事：豊田 三千代)



グラマトフィルム・スペキオムス



サバンナ温室



コシガヤホシクサの再生プロジェクト表



水草展紹介の展示物

【柳下 和之氏（園芸研究家）のコラム 第16回目】

オニバス



巨大な葉を水面に広げ、日本の自生の植物としてはかなり異彩を放っているのがこの「オニバス」です。現在は絶滅危惧に指定されている貴重な水草で、関東では埼玉の加須市と東京の葛飾しか自生が無く、細々と暮らしていると思いきや、加須の自生地では猛烈な茂り方をしている事もあり、デリケートなのか剛健かよく分からない水草です。

絶滅危惧だと思えば愛おしくもなりますが、水面一杯に葉を広げ、用水路やため池に棘だらけの浮葉を茂らせるのですから、農作業をする人間には最悪の害草だったと想像に難くなく、絶滅寸前までに追いやったのは多くの人間が望んだ事だったのかもしれませんが。

海外に自生する巨大な水草オオオニバスの浮葉は直径約3m、オニバスの浮葉は直径約2m、最大で2.6mの記録もあり葉の直径だけなら世界最大種の水草クラスの迫力です。

ただ花は残念ながらとても小さく花径2~3cm、姫スイレンにも負ける大きさ。

このギャップが最近流行り？の「ギャップ萌え※」とならないのは、とても残念でなりません。

それにしてもこの植物はスイレンのような多年草ではなく、一年草なので、植物の生育スピードにはただただ驚くばかりです。

※ギャップ萌え・・・見た目や普段の行動とは違う、ふと見せた意外な姿「ギャップ」にドキッとしてしまうこと。

【イベント情報】

※ダリアの華展2013 池袋サンシャインで（10月11~13日）

日本ダリア会は10月11日（金）~13日（日）の3日間、10時~20時 昨年に引き続き東京・池袋 サンシャインシティアルパB1噴水広場において「ダリアの華展2013」を開催する。今回はサンシャインシティ 噴水広場に約10,000輪のダリアの花で作られた“世界遺産”富士山が登場！！華やかなダリア約100品種の展示や、産地直送のダリアの切花・鉢花の即売会も実施。

12日（土）13時~ 8人の華道家等による「花いけバトル」を開催する。

入場無料 ▼<http://www.hana-zakari.jp/>

※第10回国際フラワーEXPO

平成25年10月9日（水）~11日（金） 幕張メッセ

世界中から花に関するあらゆる商品が出展する、花業界アジア最大の商談展です。切花、鉢物、植木などの植物や、花資材、雑貨などの仕入れの商談会です

※向島百花園「十三夜」

平成25年10月17日（木） 東京・向島百花園

※アグリビジネス創出フェア2013

平成25年10月23日(水)～25日(金) 東京・東京ビックサイト

※2013秋季・花き展示会

平成25年10月22日(火)～27日(日) 東京・新宿御苑

※日比谷公園ガーデニングショー2013

平成25年10月25日(金)～24日(木) 東京・日比谷公園第二花壇周辺

※小江戸川越菊まつり

平成25年11月1日(金)～23日(土) 川越・川越大師喜多院

※第18回北本きくまつり

平成25年11月3日(土)～4日(日)

【編集後記】

異常気象の影響か? 猛暑と風水害や竜巻など夏の季節も終わり、急に秋らしさを感じる頃となりました。会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか!

今回は、7月と9月に実施した研修会報告が中心となりました。お陰様で、研修会の参加人数も多くの方にご参加して頂けるようになりました。これからも大勢の方にご参加頂ける研修会を企画していますので、多くの方に是非ご参加いただきますようお願い致します。

広報紙の発行がやや遅れ気味で申し訳ありません。次号は、12月に発行を予定しています。新しいアイデアやご意見などお待ちしております!

暑い夏でしたので、いつも以上に夏の疲れがでやすいかと思えます。

くれぐれもご自愛ください!

